



自分の考え
と
他人の考え

知の営みに参加するために

東京大学
教養学部
英語部会



2024年

目次

はじめに Preface	3
1 文献を表示する Documenting Sources	5
2 スタイルガイド Style Guides	6
3 要約・言い換え Summarizing & Paraphrasing	7
4 直接引用 Direct Quotation	10
5 翻訳 Translation	14
6 剽窃 Plagiarism	15
7 出典表記と文献一覧 Citation & References	17
7.1 本文中の出典表記 In-Text Citation	17
7.2 文献一覧 Reference List	19
7.3 日本語その他の非英語文献 Citing Non-English Sources	30
7.4 文献情報管理ソフトウェア Reference Management Software	33
8 参考文献 Bibliography	34

自分の考えと他人の考え
知の営みに参加するために
東京大学教養学部英語部会
2024年

はじめに Preface

学問の世界に身を置いて、知的活動に従事しようとする際には、まず、これまでにどのような研究が行われ、どのような成果が蓄積されているのかを参照する必要があります。それは、自分自身の知的営みを、学問の世界の中に位置づける作業であり、学問の世界に対して、自分が何を貢献できるのかを確認することでもあります。もちろん、学問の世界で共有されている知識や物事の考え方を学ぶことによって、自分自身の知的視野を拡大し、発想を豊かにできるのは言うまでもありません。

現在の学問の世界では、いかなる言語においても、個人の思考や言葉と、他者のそれとを区別することが常識とされています。情報の出典を示すこと、特定の情報をどのようにして得たのかを示すことは、学術研究において極めて重要な要素なのです。学術研究で収集される情報は文献（テキスト）によるものが多いのですが、もちろんテキストに限られるわけではありません。論文の著者は情報源から得た全ての情報について、それを引用した文の直後はもちろん、文書全体の最後にも明記するのが基本的なルールです。引用の欠如は、その情報が著者自身のものとして理解されて誤解を招きます。

このように情報源を慎重に扱う理由は多岐にわたります。まず、研究において批評的な態度を保持するため、そして、公表された研究が将来の研究者にとっても有益であるようにするためです。加えて、出典を明確にすることで、読者はその出典の性質や品質を評価し、議論の中でどのように利用されているかを理解するのに必要な情報を得ることができます。

また、正確な出典の引用をすることで、学生は、その授業のために自分がどれだけのリサーチを行ったか、そしてどのような成果を得たかを、担当教員に伝えることができます。

この文脈では、他人の考えを自分のものとして提示することは、剽窃と見なされる

可能性があります。学術論文においては、他者が発表したテキストやアイデアの複製は、長さを限定し出典を示した上で、自分の文章と区別した場合に限り許されます。出典の構造を忠実に再現した言い換えや要約など、自分の考えであるかのような誤った表現は、剽窃と見なされ得ます。これを明確かつ一貫して行うためには規則が必要ですが、英語による研究発表には多くのバリエーションがあり、分野ごとに若干異なる傾向があります。この小冊子では、社会科学の分野でよく使用される米国心理学会 (American Psychological Association) のスタイルを要約して紹介します。

しかしながら、重大な例外がひとつあります。一般的な知識は引用する必要がないことです。ここで言う一般的な知識は、ある考えが一般に知られているかどうかとはあまり関係なく、むしろ、ある学問分野の中で一般的に知られ、定着しているアイデアを指します。例えば、アルベルト・アインシュタインは 1905 年にドイツの学術雑誌『Annalen der Physik』に掲載された一連の論文で、特殊相対性理論を初めて発表しました。この理論は、一般の人々には詳しく理解されていませんが、物理学者の間では広く理解されており、一般的な知識として見なされ、引用なしで言及されることがあります。

一般的な知識には、基本的で議論の余地のない情報が含まれます。欧米の文脈では、聖書の内容も一般常識とされることが多いので、通常は引用する必要はありません。疑問のある学生は、特定の科目で文章を書く際に適用する一般的な知識の範囲を担当教員に確認する必要があります。

学問の世界に踏み出そうとする今、引用の原理・原則をしっかり把握する必要があります。

文献を表示する

Documenting Sources

執筆準備の際には、使いたい情報やアイデアの出典を正確に表記しておきましょう。文章をコピーする場合でも、それが自分のものではないことを明記することが重要です。文献情報管理ソフトウェアは、このプロセスを支援する便利なツールです（7.4 参照）。アカデミックライターとしての能力は、参考にした文献の情報を正確に提示できるかどうかによって評価されると言っても過言ではないでしょう。

出典とは、学術的な文章を書く際に引用される、あらゆる媒体に記録されたあらゆる情報のことです。厳密に言えば、自分自身が以前に発表した文章であっても、新しい文章を書く際にはやはり区別すべき出典となるのです。

出典に言及する理由はさまざまです。あるアイデアの出典に謝意を表したい場合、ある主張の具体的な根拠を示したい場合、誰かが使用した特定の表現について議論したい場合などがあります。

大学の授業でレポートを書いたり、卒業論文を書いたりする場合には、どの形式に従うべきか指示があります。文献の表示は主に二つの要素から成っています。参照・援用したデータや考えなどが、他の文献から得たものであることを本文中に示す出典表記（in-text citation）と、一貫した文献記載の方法に従って論文の別の箇所（通常、本文の最後）により詳しい情報をまとめる文献一覧（references, works cited, bibliography など）です。

スタイルガイド

Style Guides

英語による学術論文には、出典を表記するためのスタイルがいくつかあります。どれにも一般的に同じ情報（タイトル、著者の姓、出版年など）が含まれますが、その情報をどのように表記するかを決めた詳細なルールがそれぞれあります。これらのルールは各々の出版社や学術団体によって「スタイルガイド」として定められており、専門分野に適した出典表記スタイルが使われることになっています。

例えば、教育、心理学、関連科学の分野ではAPA (American Psychological Association) スタイルが、人文科学分野ではMLA (Modern Language Association) スタイルが、工学、コンピュータサイエンス関連科学の分野ではIEEE (Institute for Electrical and Electronics Engineers) スタイルが使われています。これらの間には多くの細かな違いがありますが、重要な違いのひとつは、本文中での情報源の参照方法（文中引用）です。APA スタイルでは著者と出版年 (Mugglestone, 2005) を、MLA スタイルでは著者とページ番号 (Simmons and Malloy 53–58) を、IEEE スタイルでは単に角カッコ内の番号 ([3]) を指定します。書誌のスタイルはほとんど恣意的なものであり、唯一の「正しい」表示方法は存在しないことに留意してください。

この小冊子では、APA マニュアル [Publication Manual of the American Psychological Association (7th ed., 2020)] によるスタイルを詳しく解説します。このスタイルを採用したのは、これが多くの学術書で使用されているのみならず、他のスタイルにも応用しやすいという理由からです。この小冊子の最後に載せた文献一覧には、APA だけでなく、社会科学、人文科学、自然科学などさまざまな分野で広く使われているスタイルを解説したマニュアル類が載せてあります。どのスタイルを使うにしても、出典表記と文献記載については、一貫してひとつのスタイルに従うことが大切です。

要約・言い換え

Summarizing & Paraphrasing

文献から得た情報は、その文献で使われている言葉そのものを直接引用する方法（4章を参照）と、その内容を自分の言葉で要約する方法があります。出典を議論において用いる方法にもよりますが、最も一般的な方法は、引用文の要点を自分の言葉でまとめ、つまり要約して、記述することです。文献を要約するにあたって注意すべき点は、必ずその出典を明らかにしなければならないということです。自分の言葉で書いているからといって、自分の意見として扱っていいというわけではありません。例えば、論文を書く際に、紅茶にミルクを加えることでカテキンの吸収率に影響があるかを調べた van het Hof, Kivits, Weststrate, and Tijburg (1998) という論文を参考にしたとします。この実験の目的、手法と結果について、自分の論文中で言及したい場合には、以下のように要約することができます。

Van het Hof, Kivits, Weststrate, and Tijburg (1998) investigated whether adding milk to black tea would prevent catechin absorption. In this experiment, the researchers had two groups of participants consume plain black tea or black tea with milk and measured the catechin level in their blood over eight hours after tea consumption. They found that the effect of milk was only negligible.

原文に含まれる情報のうち、自分の主張と関係がある部分のみを簡潔に要約することが大切です。要約する時、自分の論文の中で他の文献に含まれる全ての情報を繰り返すことは必要でないばかりか、肝心の自分の主張からも焦点がはずれてしまいます。

言い換え（パラフレーズ）とは、他人の言葉を情報量と長さを変えずに自分の言葉で表現することです。要約する時同様、言い換えをする時にも出典を挙げなければなりません。例えば、皆さんがさまざまな文字の体系の起源についての論文を執筆してい

て、以下の一節を読むと仮定しましょう。この一節は Nicholas Ostler, *Empires of the Word: A Language History of the World* (Harper Collins Publishers, 2005) という本の 154 ページにあります。

Egypt's writing system is strange in that it has no known precursors. The first hieroglyphic inscriptions, on seals, cosmetics palettes, epitaphs and monuments, though they may be short, are well formed in the system that was to persist for the next 3500 years. They use pictures phonetically, making an illustrated word's characteristic consonants do multiple duty, as if a picture of a knife were to stand in English not just for "knife," but also for "nifty," "nephew" and "enough."

この一節を言い換える際、次のような書き方は許されません。なぜなら、上記の一節で示された Ostler の考えを単語を交換するだけで模倣しているからです。これは、剽窃と見なされかねません。

悪い例 Bad Example

The writing system used in ancient Egypt was unusual because it was like none that came before; the first writing in hieroglyphics, although brief, was fully developed in the form that would remain for the following three-and-a-half millennia. The system uses images to represent sounds, and each consonant in an illustrated word performs more than one task. It is as if an image of a gun were to represent in English not only "gun" but "again," "goner," and "goon" (Ostler, 2005).

このような言い換えを行うにあたっては、ここに書かれている考えの元にあるもの、つまり出典に言及しなくてはなりません。“Ostler (2005) explains that the writing system used in ancient Egypt was unusual because ...” という具合に、Ostler の名前

に触れるといったやり方があります。Ostler の考えに自分自身の解釈を加えたり、それをより広い文脈に当てはめようとする時は、それなりの書き方を工夫しなくてはなりません。例えば、次の文章では、前半（網掛け部分）で Ostler の考えが要約され、後半（“the lack of ... ” 以下）で新しい考えが提示されています。

While Ostler (2005) points out that the writing system used in ancient Egypt is unusual in that it seems to have been born fully formed as a system that would remain intact for three-and-a-half millennia, the lack of archaeological evidence of earlier forms does not eliminate the possibility that previous Egyptian writing systems did exist but only in media, such as wood or mud, that have since perished.

直接引用

Direct Quotation

自然科学分野では稀ですが、人文科学では、他人の言葉を正確に引用することが論文の議論にとって重要な場合があります。これは「直接引用」と言われており、言葉自体が重要な場合に限って使用するのが一般的です。直接引用が必要でなければ、出典の要約や言い換えが推奨され、出典の意義を理解していることを示すことができます。しかし、書かれている内容だけでなく、具体的にどのような言葉が使われているかを示す必要がある場合もあります。これが直接引用の目的であり、この場合に従うべき特定のルールがあります。

もし皆さんが自分の論文の中で、5 ページ目で引用された Ostler の本の一節にある重要な語句を用いようとするなら、引用符を用いて、その語句がどこから来たのかを示さなければなりません。

Neither of the two main components of the Japanese writing system, *kanji* and *kana*, is completely original; most kanji are taken directly from Chinese *hanzi*, while the kana are abbreviated forms of kanji. Similarly, the letters of the English alphabet can be traced to characters in the Latin, Greek, and other writing systems of Europe and the Middle East. In contrast, the writing system used in ancient Egypt has “no known precursors,” and even the earliest examples of Egyptian writing were “well formed in the system that was to persist for the next 3500 years” (Ostler, 2005, p. 154).

引用文に変更を加える場合には、そのことを明示しなくてはなりません。引用しようとする文や語句の一部を省略したり、変更したりする場合は、省略符号 (...) で省略の箇所を、角カッコ ([]) で変更の箇所を示します。

Ostler (2005) notes that “the first hieroglyphic inscriptions ... are well formed in the [Egyptian writing] system that was to persist for the next 3500 years.”

引用部分の意味がよりわかりやすくなるように、原文にはなかった [Egyptian writing] が追加されています。

もし原文に間違いが見つかった場合は、それが原著者の間違いであって、引用にあたって犯した自分の間違いではないことを読者に示すため、該当箇所の後に sic という言葉（「このように」 / 「ママ」という意味のラテン語）をイタリック体で角カッコに入れて書きましょう。以下の例では “occured” ではなく “occurred” が正しいことを示しています。

The New York Times reported the incident online on December 13, 2003: “The police did not say how the officer died, but said they were not looking for any suspects in the shooting, which occured [sic] at 11:57 outside 328 West 53rd street.”

また、原文の趣旨を変更してはいけません。8 ページ目で引用された Ostler の本の一節では、エジプト文字の体系は、これに先立つ他の文字体系がないため「不思議だ」とされています。ですから、次の引用の仕方は誤りです。Ostler の言葉を前後関係から切り離し、彼が別の理由でエジプト文字の体系を不思議だと考えていたように書いているからです。このような引用は、原著者の意図を著しく歪めることになります。

悪い例 Bad Example

In *Empires of the Word: A Language History of the World* (2005), Nicholas Ostler wrote that “Egypt’s writing system is strange” because it makes “an illustrated word’s characteristic consonants do multiple duty.”

広く一般に用いられていて、出典の著者独自の考えとは言えない語句に引用符をつける必要はありません。Ostler の文章の “no known precursors” と “well formed in the system that was to persist for the next 3500 years” という一節は Ostler によってなされた重要な主張であり、一般的な表現ではありません。したがって、もしそれらの表現を用いるなら、引用符に入れなくてはなりません。それに対して “hieroglyphic inscriptions” という句は一般的な表現であり、独創的な考えを表すわけではありません。したがって皆さんは、この句を別の文脈で、引用符なしで用いることができます。

The languages of the world have been written in many ways, from the hieroglyphic inscriptions of Egypt and the ideographic characters of China to the phonetic alphabets of Europe.

用いられている語句が一般的かどうかを確かめるためには、Google や他の検索エンジンでその語句を探してみましょう。もし (“hieroglyphic inscriptions” がそうであるように) 違う文脈で使われた例が何百件も何千件もヒットするなら、その語句はおそらく引用符をつけずに安心して用いることができます。もし検索エンジンの結果が不確かであれば、大事を取ることにしましょう。その語句を引用句として扱い、出典を挙げるのです。

APA スタイルでは、直接引用の際には、二重引用符 (“ ”) を用いるように定められています。引用符内の引用の場合は、一重引用符 (‘ ’) を用います。例えば、もし皆さんが、Ostler が引用しているアイルランド英語の例を含めてこの一節の一部を引用するとすれば、APA スタイルでは、以下のように体裁を整えることになります。

Ostler (2005) suggests that perhaps “some features seen in Irish English, such as ‘I’m after finishing my work’ and ‘I saw Thomas and he sitting by the fire,’ ... are features that happen to go back to the language spoken” in Britain before the arrival of the Celts (p. 517).

40 語以上に及ぶ長い一節を引用する時は、引用符を用いるのではなく、その一節の左端をインデントします。

Neither of the two main components of the Japanese writing system, *kanji* and *kana*, is completely original; most kanji are taken directly from Chinese *hanzi*, while the kana are abbreviated forms of kanji. Similarly, the letters of the English alphabet can be traced to characters in the Latin, Greek, and other writing systems of Europe or the Middle East. The Egyptian writing system was different, though. As Ostler (2005) notes:

Egypt's writing system is strange in that it has no known precursors. The first hieroglyphic inscriptions, on seals, cosmetics palettes, epitaphs and monuments, though they may be short, are well formed in the system that was to persist for the next 3500 years. (p. 154)

If Egyptian hieroglyphics did evolve from an earlier system, then the archaeological evidence for that evolution has not yet been found.

他の言語で書かれた文献にある語句や文を引用する際は、自分で翻訳しても出典を挙げなければなりません。第7版のAPAスタイルでは言い換えとして見なされているため、引用符を用いないことになっています。20世紀の日本の外交について英語で論文を書いていて、以下の一節の一部に言及したいとしましょう。入江昭著『日本の外交』（中央公論新社、1966、2005年）の154ページです。

朝鮮戦争勃発（一九五〇年）以後、アジアの国際関係には柔軟性が失われ、米ソ対決、ついで米中対決の枠ができていったという事実こそ、戦後日本の外交にとってもっとも重大なできごとであった。

この一節を英語に翻訳した上で引用する場合は、自分の訳を言い換えとして扱い、それが自分の訳であるということを示しましょう。次の例に見られるように、出典表記の際、ページ数の後にセミコロン (;) を打ち、my translation と付け加えます。

As Iriye wrote (1966, 2005, p. 154; my translation), the most important event for postwar Japanese diplomacy was the loss of flexibility in international relations in Asia after the outbreak of the Korean War (1950) and the formation of the U.S.-U.S.S.R. and U.S.-China confrontational frameworks.

ただし、後でまた同じ文献から引用する時は、“my translation” を繰り返す必要はありません。

剽窃

Plagiarism

剽窃と著作権侵害とは似て非なる概念ですが、この違いを理解することは重要です。著作権とは、オリジナルの著作物を保護する法的権利であり、それを使用するには許可が必要です。すなわち売買に使用するための権利なので、その違反には法的処罰が課せられます。一方、剽窃とは、他人のアイデアや著作物を自分のものであるかのように見せかける倫理的な違反です。著作権が基本的にアイデアそのものではなく、アイデアの表現を対象としているのに対し、剽窃は、著作権に関係なく、人のアイデアや作品を自分の功績として提示することです。要するに紫式部の作品には著作権がなく出版することなどの利用は制限されませんが、自分の作品とすることはできず、剽窃です。

したがって、著作権侵害とは異なり、剽窃を罰する特定の法律はありませんが、学界においては、剽窃が発覚した場合には倫理的問題として厳しい措置が採られることがあります。大学は、剽窃を基本的な倫理観の欠如だとして、試験におけるカンニングなどと同等に見なし、禁止しています。

ただし大学でのアカデミック・ライティングに関連する倫理的問題は、剽窃だけではありません。例えば、機械生成された文章を使用することは、(APAによれば) アイデアの出典として認められる人物が存在しないため、剽窃とは見なされないかもしれませんが、しかし、授業の目的上、すべて自分で執筆するように担当教員から指示されている場合、自動翻訳ツールや文章生成 AI の使用は厳しい罰則を受ける可能性もあります。不明な場合は、担当教員に尋ねてください。

東京大学教養学部は、剽窃についての明確な方針を提示しています。『履修の手引き』(令和5年度)には、次のように書かれています。

③レポート

授業によっては、担当教員の指示により、学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。レポートは学生一人一人が自己の責任において

作成するものであり、教員から特別な指示がない限り、他の学生と同一の内容のものを提出してはならない。

④不正行為について

当然のことながら、試験の受験、およびレポートの提出は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。不正行為を行ったと認められた者は、①その科目が開講されている Semester 期間中に履修した全科目（ターム科目を含む）の得点を無効とされ、追試験を受ける資格も与えられない。②上記①に加えて、2年次において不正行為を行ったと認められた者は、進学選択への参加資格および進学内定も取り消される。なお、不正行為に協力した者（レポートの場合は不正レポートの作成に協力した者）も、不正行為を行った者として同様に扱われる。

[一部省略]

⑦ レポートで他の文章やデータを引用する場合には、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。また、授業担当教員が認めている場合を除いて、他人の力を借りて（レポートの複写を含む）作成してはならない。

時には、盗用の意図がないにも関わらず、結果的に剽窃を行ってしまうことがあります。故意によらない剽窃という事例が多くあるのです。

論文を執筆する際には、ある主題について、多くの本や論文、さらには記事やウェブページを読むことになります。その内容を記憶するうち、それらの情報源に含まれていた独自の情報や表現・語句を知らず知らずのうちに自分の論文に取り込んでしまうのです。そのような意図せざる剽窃を避けるためには、以下のことを心がけることが大切になります。

- 読んだ文献の一覧表を作る。
- 自分の論文中に使う可能性のある情報や表現・語句について、それらを正確に記録し、情報源を書き留める。
- 情報源については、文献記載のスタイルで要求される情報をすべて漏らさず記録する。

出典表記と文献一覧

Citation and references

この章では、APA マニュアル [*Publication Manual of the American Psychological Association* (7th ed., 2020)] によるスタイルを詳しく解説していきます。

7.1 本文中の出典表記 In-Text Citation

7.1.1 著者が一人の場合

本文中の引用の基本的な書式では、著者の姓の後にコンマを入れ、続いて半角スペース、出版年を入れます。文章の句読点は出典のカッコの外に出します。

例1 A later study (Iwanaga, 1989) found that there are ...

著者名が本文中で言及されている場合には、カッコの中は出版年のみになります。

例2 As reported later by Iwanaga (1989), there are ...

著者名と出版年の両方が本文中で言及されている場合、カッコは必要ありません。

例3 As Iwanaga reported in 1989, there are ...

7.1.2 著者が二人以上の場合

著者が二人いる文献に関しては、両方の著者の姓を、引用するたびに出典表記に入れます。著者名をカッコ内に入れる場合は、二つの名前をアンパサンド (&) でつなぎます。

例4 This claim has been disputed (Simmons & Malloy, 2001).

著者名を文章において言及する場合、カッコの外側に表記し、アンパサンドの代わりに and を使います。

例5 Simmons and Malloy (2001) have disputed this claim.

著者が三人以上の文献の場合は、最初の著者の姓のみを書き、その後ろに et al. と書きます。これはラテン語の「その他」という意味の句の省略形です。al の後にピリオドがつくことに注意してください。

例6 The study mentioned above (Hammon et al., 1995) also showed that ...

7.1.3. 複数の出典の場合

出典が複数の場合は、セミコロンで区切ります。

例7 Whether social media has had a net positive or net negative effect on the well-being of individuals, groups, and society as a whole is hotly contested (Lorenz-Spreen et al. 2023; Orben & Przybylski 2019).

7.1.4 組織などによる出版物の場合

公共機関、法人、学会などの組織などによって著された出版物の場合は、その組織の名称を書きます。

例8 (United Nations, 2004)

組織の名称が長い時には、最初の出典表記では正式名称を書き、その後続けて角カッコ ([]) の中に略称を書きます。それ以降の出典表記では略称を用います。

例9 This study is based on government statistics (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology [MEXT], 2005) ... In the statistics mentioned above (MEXT, 2005), there is

7.1.5 著者名がない場合

文献に著者名が記載されていない場合は、文献一覧に載せた項目の最初の数語を書き

ます (7.2.1.6 及び 7.2.1.8 を参照)。論文など短い文献は引用符でくくり、単行本などはイタリック体で表します。

例10 A similar assertion can be found on the Internet (“Not All Conspiracies,” 2007). In the apparently self-published Handbook for maniacs (2004), the anonymous author states that

7.1.6 文献の特定の部分の出典表記

文献の特定の部分を引用したり参照したりする場合は、それがどのページにあるかを書きます。省略形の p. は 1 ページのみの場合、pp. は 2 ページ以上にわたる場合を表すことに注意してください。

例11 (Rundale, 1999, p. 23) (Higuchi & Maeda, 1954, pp. 185–188)

オンラインの文献でページ数がないものについては、段落番号など、適切な識別記号を用いてください。

例12 (NoNymBlog, 2007, para. 8)

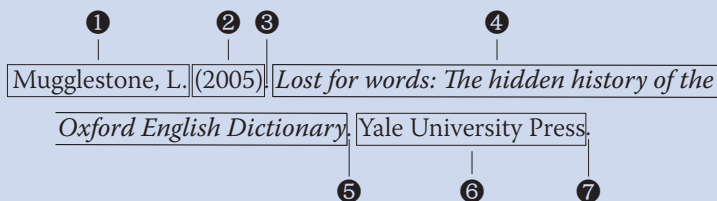
ここに現れる para. は paragraph (段落) の略です。

7.2 文献一覧 Reference List

論文で参照した文献はすべて、論文の末尾の文献一覧に載せなければなりません。文献はそれぞれの項目の最初の単語（著者名など）のアルファベット順に並べます。この時、冠詞で始まる場合には冠詞は無視し、その次の単語の最初の文字のアルファベット順にします。また、ぶら下げインデントを使用し、それぞれの文献の 2 行目以降をインデントします。ここでは、単行本、学術誌に掲載された論文、新聞、雑誌、視聴覚資料、オンライン文献を記載する方法を述べます。特殊な例についての詳しい情報は、APA マニュアルを参照してください。

7.2.1 単行本 Books

基本の形 [著者が一人の単行本]



- ① 著者の姓 (Mugglestone) の後に、著者の名前 (Lynda) のイニシャル (L.) を書きます。姓の後にコンマを、イニシャルの後にピリオドを打ちます。コンマとピリオドの前にはスペースを入れず、後にそれぞれ 1 スペース (以下、すべて半角スペース) あけることに注意してください。著者の名前がファーストネーム以外にもある場合は、それらすべてのイニシャルを書きます。例えば、Theresa Hak Kyung Cha の 1982 年の著作の場合はこのように始めます。

Cha, T. H. K. (1982).

それぞれのイニシャルの後にはピリオドを打ち、1 スペースあけることに注意してください。

- ② 本の出版年をカッコに入れます。
- ③ ピリオドを打ち、その後に 1 スペースあけます。
- ④ 書名をイタリック体で書きます。この本の書名は主題と副題の二つの部分から成っており、コロン (:) で区切られています。コロンの前にスペースは入れず、後に 1 スペースあけます。主題と副題の最初の単語 (Lost, The) と固有名詞 (Oxford English Dictionary 一辞典の書名) のみ、単語の先頭が大文字になります。
- ⑤ ピリオドを打ち、その後に 1 スペースあけます。
- ⑥ 出版社名。
- ⑦ ピリオド。

7.2.1.1 著者が一人の場合

例13 Mugglestone, L. (2005). *Lost for words: The hidden history of the Oxford English Dictionary*. Yale University Press.

初版以降の版について、書名の後に第何版であるかを記します。

例14 Ghatak, S. (2003). *Introduction to development economics* (3rd ed.).
Routledge.

ここに現れる 3rd ed. は Third edition (第3版) の略です。

7.2.1.2 著者が二人から 20 人の場合

それぞれの姓名をコンマで区切り、最後に現れる名前の前にアンパサンド (&) を入れます。

例15 Blank, J., Exner, P., & Havlíček, M. (1994). *Hilbert space operations in quantum physics*. AIP Press.
Boykin, A., & Schoenhofer, S. O. (2001). *Nursing as caring: A model for transforming practice*. Jones and Bartlett.

7.2.1.3 編著の場合

編著（編者が、複数の著者の論文などをまとめた本など）については、編者が一人の場合は、編者の姓名の後にカッコに入れて Ed と書き、編者が複数いる場合は Eds と書いて、その後ろにピリオドを打ちます。Ed. は editor を、Eds. は editors を略したものです。他の項目同様、カッコの後にもピリオドを打つことを忘れないようにしましょう。

例16 Bishop, A. J. (Ed.). (1988). *Mathematics education and culture*. Kluwer Academic.
Millán-Zaibert, E., & Salles, A. (Eds.). (2005). *The role of history in Latin American philosophy: Contemporary perspectives*. State University of New York Press.

編著に収められた論文や独立した章については、最初に執筆者名と、その論文あるいは章の題目を書き、In という語を入れた後に、本（編著）全体についての情報を記します。論文や章のタイトルはイタリック体にせず、本（編著）の書名のみイタリック体で書きます。

例17 Van Wagenen, A. (2006). An epistemology of haunting. In S. Pfohl, A. Van Wagenen, P. Arend, A. Brooks, & D. Leckenby (Eds.), *Culture, power, and history: Studies in critical sociology* (pp. 155–168). Martinus Nijhoff.

この場合、A. Van Wagenen という人物について、執筆者名としては姓が先に書かれており、編者名としては姓が後に来ていることに注意してください。（他の編者名も同じです。）ページ数 (pp. 155–168) は、この論文 “An epistemology of haunting” が本の中の箇所に載っているかを表します。

7.2.1.4 組織などによる出版物の場合

著者あるいは編者が組織などの場合、その組織の正式名称を著者として書きます。

例18 World Health Organization. (2007). *Global tuberculosis control: Surveillance, planning, financing: WHO report 2007*.

7.2.1.5 著者名がない場合

文献に著者名が記載されていない場合は、本の題名から始めます。

例19 *The new and complete American encyclopaedia: Or, universal dictionary of arts and sciences*. (1805). John Low.

7.2.1.6 翻訳書の場合

訳者名を書名の後に記し、その後ろに Translator(s) の省略形の Trans. をつけます。

例20 Murakami, H. (2000). *Norwegian wood* (J. Rubin, Trans.). Random House. (Original work published 1987)

最後のカッコ内に表示されているのは、原著『ノルウェイの森』が日本で出版された年です。

7.2.1.7 百科事典の項目の場合

執筆者名がわからない場合は、項目の題名から始めます。以下の例は、百科事典の中の“Cosmopolitan”という項目です。

例21 Cosmopolitan. (1911). In *The Encyclopaedia Britannica* (Vol. 7, p. 217).
Encyclopaedia Britannica.

ここに現れる Vol. 7 は、Volume 7 (第7巻) の略です。ページ数 (p. 217) は、この“Cosmopolitan”という項目が、百科事典のどの箇所に載っているかを表します。

7.2.2 学術誌 Journals

学術研究の多くは、学術誌に掲載される論文という形で発表されます。ほとんどの学術誌には号数がついており、連続したいくつかの号 (issue) がまとめられて、ひとつの巻 (volume) となります。現在は多くの学術誌が、紙に印刷したもの (印刷版) とオンライン版の両方で手に入ります。印刷された学術誌の一号分は、大抵、一般の雑誌のような形態になっています。一巻に収められるすべての号が発行されると、多くの場合、図書館で一冊あるいは複数冊のハードカバーとしてまとめて製本されます。オンライン版の学術誌は、大抵は印刷版の場合の慣習に従っていますので、論文は巻、号、ページ数で特定することができます。

基本の形 [学術誌掲載論文]

Anderson, J. R. (2006). Managing employees in the service sector: A literature review and conceptual development. *Journal of Business and Psychology*, 20(4), 501–523. <https://doi.org/10.1007/s10869-005-9002-5>

単行本の場合と同様に、はじめに執筆者の姓を書き、その後にコンマ、執筆者の名前のイニシャル、そしてカッコ内に入れた出版年と続けて、最後にピリオドを打ちます。次が論文の題目です (Managing employees in the service sector: A literature review and conceptual development)。論文の題目は、固有名詞及び主題と副題の最初の単語のみを大文字で始めます。学術誌の名称 (Journal of Business and Psychology) はイタリック体で、前置詞、接続詞、冠詞以外は単語の最初の文字はすべて大文字で書きます (前置詞、接続詞、冠詞も名称の先頭では大文字)。学術誌名の後にはコンマを打ち、イタリック体で巻数 (20) を書きます。その後、号数をカッコ内に記入します。この時、巻数と号数の間にはスペースを入れないこと、また、号数はイタリック体にしないことに注意しましょう。さらにコンマを打った後、論文の最初と最後のページ数を、ハイフンまたは半角ダッシュでつなぎます。学術誌のページ表記は数字のみで、p. や pp. は入りません。また、学術誌には都市名、出版社名を書きません。DOI と呼ばれる識別子が割り当てられている場合には、最後に DOI を表記します (DOI については、7.2.2.1 を参照のこと)。

学術誌のページ数の表示方法には二通りあります。巻ごとにページ数が振られている場合は、ひとつの巻に収められるすべての号を通してページ数が振られてゆきます。例えば、第一号の最後が 128 ページであれば、その巻の第二号は 129 ページから始まります。一号単位でページ数が振られている学術誌の場合、それぞれの号ごとに、1 ページから始められることとなります。ほとんどの学術誌は巻ごとにページ数が振られています (7.2.2.1 参照)。

7.2.2.1 DOI のある論文

近年では、学術誌の多くが DOI と呼ばれる識別子を採用しています。DOI は、Digital Object Identifier の略で、オンラインの電子データに、数字とアルファベットを組み合わせて個別に付与される国際的な識別子です。各論文に固有の DOI を付与することによって、オンラインでの論文の特定を恒久的に、かつ容易にすることができます。

例22 Ziegler, N. A. (2014). Fostering self-regulated learning through the European Language Portfolio: An embedded mixed methods study. *The Modern Language Journal*, 98(4), 921–936. <https://doi.org/10.1111/modl.12147>

DOI は通例、オンライン版学術雑誌論文の最初のページの右上に、著作権関連情報とともに記載されています。最近では、印刷版の学術雑誌論文にも DOI が付与されているものが増えていきますので、印刷版の論文を参照した場合でも、DOI が付与されていれば、引用文献に記載することが推奨されています。DOI は、文献情報の末尾に記載します。<https://doi.org/>と小文字で書き、スラッシュ (/) の後にスペースをあけずに DOI の数字と記号を続けます。DOI が付与されていないオンライン文献の記載については、7.2.2.2 「DOI のない論文」及び 7.2.5 「その他のオンライン文献」を見てください。

次は一号ごとにページ数の振られた学術誌に掲載された執筆者が二人の論文の例です。

例23 Ndulu, B. J., & O'Connell, S. A. (1999). Governance and growth in sub-Saharan Africa. *Journal of Economic Perspectives*, 13(3), 41–66. <https://doi.org/10.1257/jep.13.3.41>

この例において、13(3) は、この論文が第 13 巻 (Volume 13) の第三号 (Issue 3) に掲載されていることを表します。巻数はイタリック体ですが、号数はそうではないこと、また、巻数とカッコとの間にスペースが入らないことに注意してください。

学術誌に掲載された論文の執筆者が二人から 20 人の場合、すべての執筆者の名前を記します。

例24 Jun, J., Kim, J., Lee, H., & Jun, S. (2006). The prosodic structure and pitch accent of Northern Kyungsang Korean. *Journal of East Asian Linguistics*, 15(4), 289–317. <https://doi.org/10.1007/s10831-006-9000-2>

学術誌に掲載された論文の執筆者が 21 人以上の場合、最初の著者から 19 人目まで

の著者の姓名を表記し、三点リーダー (...) で省略を示した上で、最後の著者の姓名を書きます。

例25 Aad, G., Abbott, B., Abdallah, J., Abidinov, O., Aben, R., Abolins, M., AbouZeid, O. S., Abramowicz, H., Abreu, H., Abreu, R., Abulaiti, Y., Acharya, B. S., Adamczyk, L., Adams, D. L., Adelman, J., Adomeit, S., Abye, T., Affolder, A. A., Agatonovic-Jovin, T., ... Woods, N. (2015, 05/14/). Combined Measurement of the Higgs Boson Mass in pp Collisions at $\sqrt{s} = 7$ and 8 TeV with the ATLAS and CMS Experiments. *Physical Review Letters*, 114(19), 191803. <https://doi.org/10.1103/PhysRevLett.114.191803>

7.2.2.2 DOI のない論文

DOI のない論文については、DOI のある論文を記載する方法 (7.2.2.1) に従い、DOI 以外のすべての情報を明記します。

7.2.3 新聞・一般雑誌 Newspapers & Magazines

執筆者名が記されていない新聞記事などの文献記載は、記事の題名から始めます。

例26 Invasion of Nigeria: British punitive expedition routs the Emir and occupies Kano. (1903, February 15). *The New York Times*, p. 4.

この場合、年の表記が月日の前に来ることに注意してください。執筆者名が明示されている場合は、その姓名を最初に書きます。

例27 Fredericks, I., & Prince, N. (2008, December 31). Thousands of matrics still waiting for marks. *Cape Argus*, p. 1.

7.2.4 視聴覚資料 Audiovisual Media

映画についての情報を記載する場合、監督、プロデューサー、あるいは脚本家といった、制作に関わった人名を書きます。その資料が映画であることを明示し、制作国と制作した映画会社名を記します。

例28 Trent, B. (Director & Producer), & Kasper, D. (Writer). (1992). *The Panama deception* [Film]. United States: Empowerment Project.

録音された音声や音楽の情報を記載する場合は、その資料の制作者あるいは作曲家の姓名、著作権の発生した年、題名を記し、On の後にイタリック体でアルバムなどの題名、角カッコに入れた媒体名 (CD、レコードなど)、レコード会社などの所在地とその名称を書きます。録音者が制作者や作曲家と異なる場合は、題名の後の角カッコ内に Recorded by に続けてその姓名または組織名を記します。録音された年と著作権発生の日付が異なる場合は、最後にカッコ内に入れた録音年を書きます。

例29 Wilson, B. (1964). I get around [Recorded by The Langley Schools Music Project]. On *The Langley Schools Music Project: Innocence and despair* [CD]. Hoboken, NJ: Bar/None Records. (1977).

オンラインビデオサイトの場合は、ビデオを投稿した個人または組織の名前を、それがわからない場合はユーザー名を記載する。投稿日、ビデオのタイトル、ウェブサイト名、URL を記載します。

例30 The Coca-Cola Company. (2024, January 2). *New Guy :90* [Video]. YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=bliXHRp67Rs>

7.2.5 その他のオンライン文献 Other Online Sources

インターネット上にある資料の文献記載においては、読者が、将来も同じ資料にアクセスすることができるよう、十分な情報を載せておく必要があります。もっとも簡明な方法は、その資料の完全な URL を記載することです。また、ウェブサイトが変更される可能性がある場合は、その資料を閲覧した日付も記載することが必要です。日付を記

すのは、オンラインの資料が変更されたり、消去されたりすることがあるためです（それ以前の安定バージョンは Internet Archive (www.archive.org) などのサイトに存在する可能性があります）。下に示すのは典型的な例です。

内容が変更される可能性がある例（資料に日付がない場合は no date を意味する n.d. と書きます）：

例31 National Archives of Singapore. (n.d.). *Plan of Singapore Town and Adjoining Districts from Actual Survey by John Turnbull Thomson, Government Surveyor, Singapore*. https://www.nas.gov.sg/archivesonline/maps_building_plans/record-details/fa3f6192-115c-11e3-83d5-0050568939ad

内容が変更される可能性がある例：

例32 World Health Organization. (2024). *WHO COVID-19 dashboard*. Retrieved February 13, 2024, from <https://data.who.int/dashboards/covid19/cases>

オンライン文献の場合は、末尾にピリオドを打たないことに注意してください。また、資料を閲覧した日付は Retrieved という語の後に記します。

資料が個人によるものである場合、その人物の名前を、姓、名の順で、最初に記します。ブログや掲示板、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) のサイトの場合は、サイト名の前に Message posted to と書きます。以下にその例を挙げます。

例33 Sullivan, A. (2009, January 2). Some truths for now. Message posted to *The Daily Dish*. <http://www.theatlantic.com/dailyVdish/archive/2009/01/someVtruthsVforVnow/207174/>

資料に著者名が記載されていない場合には、資料の題名から始めます。

例34 Public proxy servers. (n.d.). Retrieved November 24, 2017, from <http://www.publicproxyservers.com/>

資料の URL が長い場合、あるいは一時的なものである場合は、そのウェブサイトのトップページか、資料が容易に見つかるページの URL を代わりに載せておきます。例えば、資料が掲載されているイギリス外務省 (U.K. Foreign & Commonwealth Office) の URL が <https://www.gov.uk/government/publications/government-response-to-the-foreign-affairs-committee-report-on-the-fcos-human-rights-work-in-2013> となっています。このような長い URL は、ブラウザで正確に打ち込むことが難しいため、参照したページを探しやすいように、同じサイト内のより検索しやすいページ (ここではサイトのトップページ) を提示します。

例35 Foreign & Commonwealth Office. (2015). Government response to the Foreign Affairs Committee report on the FCO's human rights work in 2013. In *Promoting human rights internationally*. Retrieved from www.fco.gov.uk

生成 AI の出力をソースとして使用する場合、APA はアルゴリズムの作者をソースとして指定することを推奨しています。したがって、アルゴリズムの作者、タイトルとしてのソフトウェア名、バージョン、アクセス可能であれば URL を記述します。どのようなアルゴリズムが使用されたかを読者に理解してもらうために、角カッコ内にアルゴリズムの簡単な説明を加えることもできます。

例36 OpenAI. (2024). ChatGPT (ChatGPT 4) [Large language model]. <https://chat.openai.com/chat>

また、再現性のためなど、使用記録を保管することが必要な場合もあります。

7.3 日本語その他の非英語文献 Citing Non-English Sources

日本語、中国語、韓国朝鮮語で書かれた文献を掲載する場合は、一般的な転写方法に従って著者名をローマ字に転写します。著作のタイトルは、適宜、音訳するか原文のままとし、角カッコに英訳を付記します。作品の入れ物のタイトル（雑誌名または編集図書名）は翻訳する必要はありません。

日本語文献の例を三つ、以下に示します。まず単一著者の単行本の場合です。

例37 Kibata, Y. [木畑洋一]. (2008). *Igirisu teikoku to teikoku shugi* [イギリス帝国と帝国主義. The British empire and imperialism]. Yūshisha [有舎].

次は、編著者が編纂した論文集の中の論文の場合です。

例38 Oshima, M. [大島まり]. (2008). *Shucchō jogyō ni miru kagaku komyunikēshon* [出張授業にみる科学コミュニケーション. Science communication in outreach classes]. In Y. Fujigaki [藤垣裕子] & Y. Hirono [廣野喜幸] (Eds.), *Kagaku komyunikēshon ron* [科学コミュニケーション論] (pp. 145–157). Tōkyō daigaku shuppankai [東京大学出版会].

最後は、オンラインの新聞記事の場合です。

例39 Tokushū: Hajimaru eko seikatsu [特集: 始まるエコ生活. Special report: The start of an ecological lifestyle]. (2009, January 3). *Mainichi Shimbun* [毎日新聞]. <http://mainichi.jp/>

日本語、中国語、韓国朝鮮語のローマ字表記は、その言語において一般的に用いられている形式を一貫して使用します。日本語においてはヘボン式が推奨されていますが、訓令式でも構いません。ローマ字表記についてのより詳細な情報は、東京大学教養学部英語部会のホームページに掲載されている「日本語のローマ字表記の推奨形式」(<https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/eigo/romaji.html>) を参照してください。

一般的には、ギリシア語、ロシア語、ヒンディー語、アラビア語のような、ローマ字以外の表音文字のみで書かれる言語の文献の場合は、ローマ字転記と翻訳の記載があれば、原語の文字表記はなくてもよいです。

例40 Trifonov, I. (1979). *Utoleniie zhazhdy: Roman y rassказы* [Quenched thirsts: A novel and short stories]. Profizdat.

フランス語やドイツ語、ベトナム語のような、ローマ字で書かれる言語による文献の場合は、原語の題名と翻訳を記します。その場合、原語のアクセント記号、声調記号などは、できる限り元の形通りに再現します。

例41 Camus, A. (1942). *L'étranger* [The stranger]. Gallimard.

DeepL や Google 翻訳、AI プログラムなどを使って翻訳した場合は、その詳細を記載します。

例42 Baerbock, A. [@ABaerbock]. (2022, June 14). *With today's draft bill on the #NorthernIrelandProtocol, London is unilaterally breaking agreements*. X. Translated from the original German with Google Translate. <https://twitter.com/ABaerbock/status/1536421025553993734>

なお、この SNS サイトへのメッセージの引用では、最初の 20 語ほどがタイトルとして使われています。

APA スタイルの論文例

(本文)

The primary purpose of massive monolingual dictionaries such as the *Deutsches Wörterbuch* (DWB) or the *Oxford English Dictionary* (OED) is scholarship, even science. Both the DWB and OED are “committed to scholarly principles” (Christmann & Schares, 2003, p. 11), and from its earliest days “[s]cience was ... made central to the *OED*’s achievements and execution” (Mugglestone, 2005, p. 110). For the typical student or language learner, however, such lofty ideals yield a comprehensiveness that can interfere with the task of determining what words mean and how they are used in everyday contexts. These practical goals have been the primary focus of English-Japanese lexicography in Japan (Ikegami, 2006), particularly, as has been noted by Yagi (2006, p. 19), since the publication of the first edition of *Kenkyusha Shin Eiwa Chujiten* [Kenkyusha’s New Collegiate English-Japanese Dictionary] in 1967.

(文献一覧)

References

- Christmann, R., & Schares, T. (2003). Towards the user: The digital edition of the *Deutsches Wörterbuch* by Jacob and Wilhelm Grimm. *Literary and Linguistic Computing*, 18(1), 11–22. <https://doi.org/10.1093/lc/18.1.11>
- Ikegami, Y. (2006). English dictionaries in Japan: Past, present, and future. In The JACET Society of English Lexicography (Ed.), *English lexicography in Japan* (pp. 2–17). Taishukan Publishing.
- Mugglestone, L. (2005). *Lost for words: The hidden history of the Oxford English Dictionary*. Yale University Press.
- Yagi, K. [八木克正]. (2006). *Eiwa jiten no kenkyū: Eigo ninshiki no kaizen no tame ni*. [英和辞典の研究：英語認識の改善のために。A study of English-Japanese dictionaries: For the improvement of English awareness]. Kaitakusha [開拓社].

7.4 文献情報管理ソフトウェア

Reference Management Software

かつては、学生であれ研究者であれ、学術論文などを執筆する際は、出典表記や文献記載を手書きやタイプライターで処理しなければならず、スタイルを変更する場合は、すべて書き直したり、再度タイプしたりという苦勞がありました。現在では、EndNote や BibTeX といった名称のソフトウェアを使うことで、これらの作業を効率的に行うことができます。また、マイクロソフト・ワードにも、文献情報が管理できる機能が備わっています。こうしたアプリケーションでは、文献情報を、手作業によらず、オンラインのデータベースからも収集できます。また、収集したデータを自動的に APA、MLA などの、定められたスタイルに準拠して配列することもできますので、単行本や学術論文の刊行など、学術研究の成果の発表に利用すれば、大幅に時間を節約することができます。ただし、こうしたソフトウェアを利用する場合でも、出典表記や文献記載の原理に精通し、自らの論文の細部に至るまで責任を持てるようにすることが重要です。詳しくはこちら：

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/literacy/user-guide/campus/ref>

参考文献

Bibliography

次の文献には、引用と出典記載についてのより詳しい情報が記載されています。

- American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.). <https://doi.org/10.1037/0000165-000>
- アメリカ心理学会(APA). (2023). *APA ronbun sakusei manyuaru* [APA論文作成マニュアル. *Publication manual of the American Psychological Association*] (J. Maeda [前田樹海] & H. Eto [江藤裕之], Trans.). Igaku shoin [医学書院].
- Kamimura, T. [上村妙子], & Oi, K. [大井恭子]. (2004). *Eigo ronbun repôto no kakikata* [英語論文・レポートの書き方. A handbook for writers of essays and research papers]. Kenkyusha [研究社].
- Modern Language Association of America. (2021). *MLA handbook* (9th ed.).
- Purdue University. (n.d.). Quoting, paraphrasing, and summarizing. In *Purdue Online Writing Lab*. https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/using_research/quoting_paraphrasing_and_summarizing/index.html
- Purdue University. (n.d.). Avoiding plagiarism. In *Purdue Online Writing Lab*. https://owl.purdue.edu/owl/resources/preventing_plagiarism/avoiding_plagiarism/index.html
- Sakata, S. [阪田せい子], & Larke, R. [ロイ・ラーク]. (1998). *Dare mo oshienakatta ronbun repôto no kakikata* [だれも教えなかった論文・レポートの書き方. Tips for writing a thesis/report that nobody has given]. Sôgô horei shuppan [総合法令出版].
- University of Chicago. (2017). *The Chicago manual of style* (17th ed.).
- Van Leunen, M. (1985). *Eigo ronbun no kakikata handobukku* [英語論文の書き方ハンドブック. A handbook for scholars]. (S. Watanabe [渡部昇一] & K. Nagamori [永盛一], Trans.). Nanundô [南雲堂]. (Original work published 1978)
- Yoshida, K. [吉田健正]. (2004). *Daigakusei to daigakuinsei no tame no repôto ronbun no*

kakikata [大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方. How to write a report/thesis dedicated to undergraduate and graduate students] (2nd ed.). Nakanishiya shuppan [ナカニシヤ出版].

このパンフレットの作成に際し、以下の文献から有用な考え方や視点を得ました。これらも読まれることをお勧めします。

- Currie, P. (1998). Staying out of trouble: Apparent plagiarism and academic survival. *Journal of Second Language Writing*, 7(1), 1–18. [https://doi.org/10.1016/S1060-3743\(98\)90003-0](https://doi.org/10.1016/S1060-3743(98)90003-0)
- Deckert, G. D. (1993). Perspectives on plagiarism from ESL students in Hong Kong. *Journal of Second Language Writing*, 2(2), 131–148. [https://doi.org/10.1016/1060-3743\(93\)90014-T](https://doi.org/10.1016/1060-3743(93)90014-T)
- The Library, University of Lincoln. (n.d.). *Referencing and plagiarism: APA*. <https://guides.library.lincoln.ac.uk/c.php?g=713460&p=5159817>
- Macdonald, R., & Carroll, J. (2006). Plagiarism—a complex issue requiring a holistic institutional approach. *Assessment & Evaluation in Higher Education*, 31(2), 233–245. <https://doi.org/10.1080/02602930500262536>
- Park, C. (2003). In other (people’s) words: Plagiarism by university students—literature and lessons. *Assessment & Evaluation in Higher Education*, 28(5), 471–488. <https://doi.org/10.1080/02602930301677>
- Pennycook, A. (1994). The complex contexts of plagiarism: A reply to Deckert. *Journal of Second Language Writing*, 3(3), 277–284. [https://doi.org/10.1016/1060-3743\(94\)90020-5](https://doi.org/10.1016/1060-3743(94)90020-5)
- The Writing Center, University of Wisconsin-Madison. (n.d.). *Acknowledging, paraphrasing, and quoting sources*. <https://dept.writing.wisc.edu/wac/acknowledging-paraphrasing-and-quoting-sources/>
- Yamada, K. (2003). What prevents ESL/EFL writers from avoiding plagiarism?: Analyses of 10 North-American college websites. *System*, 31(2), 247–258. [https://doi.org/10.1016/S0346-251X\(03\)00023-X](https://doi.org/10.1016/S0346-251X(03)00023-X)



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO